

# 第 1 回美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議 議事録

## ■開催日時・場所

平成 28 年 2 月 4 日（木）10 時 00 分～12 時 00 分

美祢市民会館大会議室

## ■次第

1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. 委嘱状交付
4. 事務局紹介
5. 会長・副会長選出
6. 講演  
演 題 「日本版 CCRC 高齢者健康コミュニティによる地域包括ケアシステム」  
講演者 NPO 法人高齢者健康コミュニティ代表 窪田昌行
7. 自己紹介
8. 美祢市における構想のとりくみについて  
(1) 美祢市生涯活躍のまち構想（骨子）説明  
(2) 協議
9. その他
10. 閉 会

## ■配布資料

1. 美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議設置要綱：資料 1
2. 美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議委員：資料 2
3. 美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議の会議運営について（案）：資料 3
4. 美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議（骨子）：資料 4
5. 平成 27 年 12 月 11 日 日本版 CCRC 構想有識者会議「生涯活躍のまち構想（最終報告）」【概要】：資料 5
6. 「生涯活躍のまち」構想（最終報告）：資料 6
7. 美祢市人口ビジョン：資料 7
8. 美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略：資料 8
9. 第 1 回美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議 配置図
10. 第 1 回美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議 会議次第
11. 第 1 回美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議 出席者名簿
12. 講演資料および窪田代表プロフィール
13. 美祢市生涯活躍のまち構想策スケジュール
14. 美祢市生涯活躍のまち構想策に係る意見調査票
15. 美祢市生涯活躍のまち構想講演会チラシ

■出席者名簿

敬称略・順不同

区 分		氏 名	出欠席
委員	山口県宇部健康福祉センター所長	恵上 博文	出席
	山口県総合企画部審議監	北村 敏克	出席
	美祢市生涯学習まちづくり推進協議会会長	篠田 清臣	出席
	美祢市病院事業管理者	高橋 睦夫	出席
	美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会会長	竹岡 昌治	出席
	山口大学経済学部教授（地域福祉社会学）	鍋山 祥子	出席
	美祢市シルバー人材センター理事長	西村 元和	出席
	美祢市社会福祉協議会会長	弘利 眞勝	出席
	山口大学経済学部教授 （美祢市産業振興推進審議会会長）	古川 澄明	出席
	美祢市市民福祉部長	三浦 洋介	出席
	株式会社山口銀行地域振興部長	山西 淳	出席
	講師	NPO 法人高齢者健康コミュニティ代表	窪田 昌行
事務局	美祢市総合政策部長	藤澤 和昭	出席
	美祢市総合政策部企画政策課課長	佐々木 昭治	出席
	美祢市総合政策部企画政策課課長補佐	岩崎 敏行	出席
	美祢市総合政策部企画政策課主査	石川 博之	出席
	美祢市市民福祉部高齢福祉課課長	河村 充展	出席
	美祢市市民福祉部高齢福祉課課長補佐	金子 里美	出席
委託事業者	株式会社 YMFG ZONE プラニング 部長	澤田 一美	出席
	株式会社 YMFG ZONE プラニング 課長	松本 真治	出席

■議事録

1. 開 会

（説明略。事務局から開会の宣言と資料の確認が行われた。）

2. 市長あいさつ

村 田 市 長 （ 会 長 ）	国の戦略において、東京一極集中の是正、地方移住の推進を切り札として、人口減少、少子高齢化、地方移住希望をかなえる日本版 CCRC 構想が揚げられている。 しかし、美祢市は数年前より東京一極集中で、それに耐え得る体制が十分整っていない
--------------------	---

いことが分かっていたことから、いずれこういった事態が来る事を申し上げてきた。

国がようやくそのことを声高に示し、全国的に推進しようという姿勢を示したことを、私は待ち望んでいた。

国は CCRC 構想を、平成 27 年 8 月より「生涯活躍のまち構想」と呼んでおり、現在全国では「生涯活躍のまち」での取り組みが加速度的に広がってきている。

本市においては、昨年 10 月に「美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、その重要戦略として「美祢市生涯活躍のまち構想」を位置づけている。

策定にあたり、専門的なご知見、ご助言を頂戴し、ご提言をまとめていただきたいと願っている。

今回提言をまとめるあたり、2つのお願いを申し上げたい。

1つ目は、CCRC はアメリカの発祥で、リタイアされた方が幸せに暮らせる地域社会を作っていこうという考え方であるが、美祢市においては、お年寄りだけでなく『老若男女障害の有無に関わらず全ての方が共に生きる』を市政の根幹たるテーマに据えている。

この基本理念によって結果的にリタイアされた方が、幸せに暮らすことができる、共に生きていくまちをつくって行くことを我々の市の大きな柱としたい。このことを念頭に取りまとめて欲しい。

2つ目は、美祢市は 9 月 4 日に山口県で初の日本ジオパークに認定された。美祢市は秋芳洞や秋吉台を中心に、非常にすばらしい地質遺産、地球遺産を持っている。美祢市は他に無いすばらしい地質遺産の上に成り立っており、広大な面積で言えば東京 23 区の 4 分の 3 に匹敵する市域を持っている。東京 23 区には 1,000 万近くの方々が住んでいるが、我々は 3 万を切っている。それほどすばらしい地域を我々のような少数の市民が支えている、暮らしていることを誇りに持っていただきたい。これをもってこの CCRC を組み立てて行きたい。

すばらしいこのジオパークたる美祢市を根幹として老若男女障害の有無に関わらず生涯にわたって持続可能な共に支えあう、共に生きるまちを作るためのご提言を頂戴したい。

大変なことをお願いしているが、美祢市全体が法律的な過疎地に認定されている都市である。都市でありながら全域が中山間地の過疎地であり、我々の成功が山口県のモデル、全国的なモデルになれると思っているので宜しく願いたい。

### 3. 委嘱状交付

---

(説明略。村田市長から委嘱状の交付が行われた。)

### 4. 事務局紹介

---

(説明略。事務局から紹介が行われた。)

## 5. 会長・副会長選出

---

事務局	本会議の会長、副会長は事前に配付した資料 1「美祢市生涯活躍のまち策定有識者会議設置要綱」の第 5 条第 1 項に「有識者会議に会長 1 人及び副会長 1 人を置き、委員のうちから互選により定める」となっていることから、どなたか、推薦があればお願いしたい。
竹岡委員	事務局側でお考えがあれば推薦いただきたい。
事務局	このたびの生涯活躍のまち構想の考え方は、非常に地域福祉社会学に関連があると考えている。このことから、専門家でありワークライフバランスにも取り組まれている鍋山委員を会長に推薦したい。 また、副会長については、美祢市において地域福祉の実情を大変把握されておられる弘利委員にお願いしたいと考えているが、如何か。
委員一同	異議なし
事務局	それでは、会長を鍋山委員、副会長を弘利委員に決定したい。 それでは、会長と副会長のお二人には前の席に移動いただいて、会長、副会長の順に一人ずつご挨拶いただきたい。
鍋山会長	市長の話にもあったとおり、今の美祢市は待たなしの状況に入っていると思われる。この時期に守りに入るか、新しいところに打って出るのが分け目になると思う。 構想策定には時間が無く、この場で議論する時間も十分でないが、皆さんがお帰りなられてからも意見を出し合いながら進めて行きたい。
弘利副会長	社会福祉協議会では住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを大前提としている。この度、社会福祉に関わりのある関連もたくさん出てくると言うことで、この場に座っていると思うので宜しくお願いしたい。
事務局	それでは、これ以降の議事進行については、「美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議設置要綱」第 6 条第 1 項に「有識者会議の会議は、会長が議長となる」と規定されているので、鍋山会長にお願いする。

## 6. 講演

---

(説明略。NPO法人高齢者健康コミュニティ窪田代表より講演が行われた。)

## 7. 自己紹介

---

鍋山会長	山口大学の鍋山です。今の講演の中で、アメリカとは違う部分、美祢市で行う CCRC ということで、何に着目していくかが非常に重要になってくる。美祢市という地域が持っている特性を最大限活かして、それが移住促進に結びつかないといけないと思うので、どのような魅力をアピールすることが出来て、その魅力を十分活かしたいと思う方々が
------	---

移住してきてもらえるような仕組みづくりをしていくことを考えていきたいと思っている。

弘利副会長

美祢市社会福祉協議会の会長を務めている弘利と申します。今、CCRCの説明を受けて、どういう構想かというのは理解させてもらった。承知のとおり、関東周辺で高齢化が進んできた、大変問題になっている。そういう人達の分散が叫ばれて、このような構想が生まれた。そういう中で、私達の少子高齢化、過疎が進んだ美祢地域で、そういう受け皿ができないか、作っていいんじゃないか、というのが目的ではないだろうか。

社会福祉協議会としては、住み慣れた土地で、みんなが幸せになれるような地域づくりに励んでいる。何をおいても、まず地域に暮らしている者が幸せになるということが大前提ではないかと感じている。

私達、ここの高齢化が進んで、地域の人達が幸せになれるような地域が出来れば、東京にも発信できる。受け皿がちゃんとしていないと、いくら叫んでも駄目だと思う。高齢者のために幸せになれる地域づくりを、という思いに至っている。

恵上委員

宇部の健康福祉センターの恵上です。管内の美祢市と山陽小野田市と宇部市で、健康や医療、介護、福祉、食品、環境など幅広く仕事をさせてもらっている。自分自身は、医療介護連携や高齢者の介護福祉施設の勉強をしている。

美祢市のために役に立てれば幸いである。

北村委員

山口県で地方創生担当している北村です。美祢市の人口ビジョンを見ると、今2万8千ぐらいの人口が、32年には減少している。出生率に期待できないので、社会増をしっかり確保していく施策が重要になってくる。そうすると、このCCRCが重要な意味合いをもってくると思われる。

CCRCについては、東京の高齢者対策という側面もあるが、介護人材の問題等を解決すれば地方にとっても悪い話ではない。

介護人材、医療人材の若年層の流入も期待できる。あわせて、高齢者の消費により、効果が高いのではないかとと思われる。

ただ、日本のCCRCは、やっとな地域再生法が今回出たくらいで、まだ法制度が整い始めたばかりで、トップランナーということで、非常にハードルが高いと思うが、しっかり協力していきたい。

篠田委員

美祢市生涯学習まちづくり推進協議会の篠田と申します。私たちの会は、教育委員会のもとで、公民会、学校、企業・事業所と各種団体の代表38名で運営している。市民一人一人が、より豊かで、生きがいのまちづくりを目標にやっているが、美祢市生涯活躍のまちづくり構想に、繋がってくると思われる。

美祢市の市民に対して活動してきたが、今度は地元が元気になって、市外から受け入れられないとならないということを感じた。地元のために活動していきたいと思う。

高橋委員

美祢市病院事業管理者の高橋と申します。美祢市は、美東病院と美祢市立病院と2つの病院を有している。今年、地域医療ビジョンという病床機能構想というか、急性期型とか介護療養型とか、病床を適正にするように県・国から言ってきている訳だが、今年中には医療ビジョン構想を策定することになっている。

先ほど、市長が言われたように、日本版CCRCは、美祢市にとっては、お年寄りに来て

もらうことは結構なのだが、老若男女いわゆる子育てが出来る、子どもを産むことができる若い世代に来てもらって、人口が少しでも増えるようなまちづくりが出来ればいいと思う。

そのためには、小児科医を含めて、若い人らへの支援ができる医療環境をつくれたらいいと思っている。

竹岡委員

美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会の会長の竹岡です。2分間で考えを発言してもらいたいとの依頼であったが、かなりのページ数で考えをまとめている。後日提出させてもらいたいと思うので、今日は考え方については割愛させてもらいたいと思う。

西村委員

美祢市シルバー人材センターの西村です。当センターは、高齢者の生きがいづくりを目的に設置された組織で、現在会員は440名、平均年齢70歳、それぞれの自治体や企業とか家庭から仕事を請けて、それを提供し、会員の生きがいとか、若干の収入とかを受け、地域社会に貢献しているのではないかと感じている。

日本版CCRCだが、大変いいことであり、是非進めていかなければならない大きな課題と思っている。

そんな中でも私は「地域包括ケアシステム」が大事だと。地域で高齢者が生活していくうえで、在宅を支える5つのサービスというか、こういったことを立体的に提供できる。また、まちなかというのも出てきているが、コンパクトなまちづくり、アクティブなシニアが地域の活性化にはたす役割は大きいのではないかと感じている。

とにかく、活躍の場を広げていくことが、孤立とか認知とか、介護予防にもなっていくのではないだろうか。

支えてもらう方から、支え手になって、生涯現役社会が出来ていったらいいと思う。

余談になるが、先般、同郷会をやった。東京から帰ってきた者が、「我々は、50年前は金の卵として東京に出て行って、今は少し高齢になって、お荷物になってくるのではなからうか」という話も出ていたが、

そんな形にならないような社会づくりが必要。

小さくてもキラリと光る美祢市の推進ができていけたらいいと思っている。

古川委員

山口大学の古川でございます。産業振興推進審議会のお世話もさせてもらっている。

二つほど、提案させてもらいたい。

まず、東京オリンピックの流れもそうだったが、最後の完成形体がきちんと出来ていないと、うまくいかない。そのための設計図がしっかり出来ていないと、ダメだと思う。

美祢市のような地域だと、ここに住んで、ここで生涯を送りたいと、私自身は思わない。自分は美祢の出身だけども。美祢で生涯をおくりたいと思わせるものを整えないと、人は来ない。

先ほどの話でもあったが、お金もってないとだめ。2000万円ですよ。2000万円あったら山口市に住みますよ。これをクリアする条件が何かということ、しっかり美祢でやらないと、できないということ。

西村委員が、大変興味深いことを仰っていて、都会に出た人に帰ってきてもらう、これはいいやり方だと思う。都会に出てお金を持ったら、周りに親族がいる場所、生まれ

故郷に帰りたい。周りに兄弟や親族がいる地で、お金を持って、山口で暮らしたいと思うような人を引っ張り込むことが大切。

村田市長がリタイアと仰ったが、リタイアという言葉は捨てろ、と。生涯現役だと。私も65になるが、死ぬまで働きたい。けど、働く場所がない。産業立地にしても、山口に産業団地があるが、ここには労働者がいない。だから企業が来ない。いくら団地を作っても雇用者が確保できないと無理。

美祢市が生き残っていくためには、50代だけでなく、60代、70代でも働く。最後、どうしようもない時には病院に行くが、美祢に行けば、最先端の医療が受けられるとか。鳥栖には、重粒子線がんセンターとかあるが、そういうハイテクな機関をつかって人を呼び込む。

やろうとしているCCRCの設計図で、雇用につながるものになれるかどうか。アメリカは、ビジネスの国だから、もうビジネスモデルだ。ビジネスモデルとして成り立つのか。成り立つビジネスモデルを設計できないと上手くいかない。つまり儲からないとダメだ、ということ。もしくは、政府から金をもらうことだが、政府は金出さないといっていることから、儲からないとダメとなる。

三浦委員 市職員からの選出ということで、お世話になります、市民福祉部長の三浦です。市民福祉部は、市民との関わりが深い部でして、お子さんから、障害の方、高齢者、幅広く事業等を実施している。

この構想をもとに、今住んでいる高齢者が安心して暮らしていける、またこの構想で、より多くの方が美祢市に来てもらえるためには、どうしたらいいか、ということを勉強して意見を出したい。

山西委員 山口銀行の山西と申します。銀行では地方創生を担当している。事務局サイドのワイエムゾップと、連携して地方創生の課題に取り組んでいる。

私がこの協議会に求めるものは、法制度はあるだろうけど、フレームワークを勝手に決めつけなくて欲しいということ。年寄りだとか、年寄りでないとか議論があるが、別に50歳以上でフレームワークを作る意味もなく、家族ぐるみできてもらってもよし、東京から東京からと言っているが、今福岡市で何が起きているかと言うと、65歳以上の人口が爆発的に増えている。介護医療が追いついていかない。遠い東京から連れてこなくても、UIJターンは福岡からでもいい。

美祢市がフロントランナーなのであれば、トップでゴールして欲しい。フレームワークを固く作らずに、美祢の特色あるものを作ってほしい。

もう一つ課題なのは、皆さんから出ていないのは情報発信力だと思う。魅力あるものを作らないといけないと言っても、結局、情報発信をどうやっていくのかが、最後の難関だと思うので、このあたりはしっかり議論していただきたいと思う。

## 8. 美祢市における構想の取り組みについて

### (1) 美祢市生涯活躍のまち構想(骨子)説明

(説明略。事務局から美祢市生涯活躍のまち構想(骨子)に関する資料について説明が行われた。)

## (2) 協議

鍋山 会長

それでは協議に入る。事務局より 11 頁以降で加えたい項目や事柄があればご意見を頂きたいとのことなので、ご質問でも構わないので、ご意見のある方は挙手の上発言いただきたい。

古川 委員

構想自体が受身である。自分たちの年金などのお金をつぎ込んで介護をしていくという発想は明るくないし、前に開いていかない。そうではなくてせつかくの機会なので、もっとパッシブに。武道に攻撃は最大の防御という言葉があり、攻撃とは付加価値をつけるような実証実験を積み上げていかないといけない。補助金制度のようにお金を投じて結局うまくいかなかったといった話も多い。付加価値を産み出すような取り組みやモデルづくり必要である。

構想の中で IT 化とあるが、病院と介護を受ける人達をつないで IT 化するとき、IT によって利便性を享受するような仕組みを作ろうではなくて、トヨタのようなモデルを作って売り込む発想の転換が必要。それをしないと努力の甲斐なく文章にまとめて終わりとなり、これまでずっとやってこられたことと同じである。

この機会なので覚悟をきめないと美祢市がこのまま沈んでしまう。覚悟をきめる時期は通り過ぎていくのかもしれないが、本気で付加価値がつくような、成功している国内の都市や海外の成功事例をベンチマーキングして、観光を含めた資源を付加価値がつくようにいかにつくりこんでいくか。

日本人は地元に戻りたいと思っており、都会に出ても親戚兄弟がいる方がいいと思っている人が多い。なぜ帰らないかは子供がいるから。

日本型のコミュニティのあり方は施設をつくるのか、個々の家をコントロールして、まち全体でそういうものを作っていくのかなど、完成形（具体的な成果）を見ながら作り込んでいかないと難しい。情報発信を含めて付加価値がつくような美祢モデルをどう作っていけるかが大事である。

北村 委員

介護だけだと東京の高齢者がこっちに来るだけで、人口が増えることしかメリットが無い。そうではなくて、比較的若い年代の高齢者に来ていただいて地域のために活躍してもらい、あるいはお金を落としてもらうことと、介護人材や関連産業が入り込んでくることによってお金が落ちると経済効果が発生する。その話を前向きに書いていくことが大事。また、若い方を連れてこようと思うと、就労や社会貢献活動、生涯学習などで具体的にこんなことができるということを明確に打ち出していかないといけない。

今の骨子には『こういうものがありますよ』程度しか書いていない。就労などで、50代、60代の方はこんなやりがいのあることができるといったことを提示していかないと競争に負けてしまう。

ジオパークの場所で、誇りだけでは生活できないので、美祢に行ったらこんな老後が送れるといったことを具体的に提示して行かなければならない。そこをしっかりアピールするような構想になると良いのではないか。

古川 委員

島根県は IT 化で成功している。そういうモデルを作ってくれるような会社を誘致する、あるいは研究機関に入ってもらい（宇部興産関連や医療関連など）。観光ジオパーク



であれば観光研究機関を誘致するなど、いろんな誘致をして付加価値を産む仕掛けをすると若い人の就労が見込まれる。

ソフトの問題なので環境がよければ働き甲斐のある場所へ行く。美祢や長門は非常に良い立地を持っている。ここで将来を担うような実証実験を行う。そんな美祢モデルでやるような、具体的に結果が出るようなものを構想していかないとなかなか成功しない。

なぜ島根県が成功したのかを参考にすべきではないか。宇部興産の研究機関や美東病院に山大の研究機関などを入れてはどうか。国に頼るのではなく地域から打って出てはどうか。

神戸には介護施設が無く認定も悪い。要するに人が多すぎる。その点田舎のほうが、施設が充実していて条件がいい。そういったメリットを比較検討しながらうまく利用して行けばよい。

鍋山会長 今の話をまとめると、もう少し攻めに転じたような項目にして欲しい。また、具体化できるようなところまで持って行って、構想にしても具体化していくといった内容にした方がよいといった意見であった。

竹岡委員 美祢市の中心市街地の商店街は全滅である。市役所とその裏の公園までアクセスが悪い。旧商店街含めた駅から公園の駐車場までを特区にして市道を入れ、その周辺に商店を貼り付けていく。50代の方を集めるといっても具体的な受け皿が無い。経験のある方が自分の趣味を活かしながら商売をしたいという方をその特区に集めて、それ以外の方達をどういった集め方をしていくかなど具体的なことに取り組んでいかないと、ただ文章を書いただけではだめ。まず仕事をつくらないと人は来てくれない。人が来ないと街はできない。そういう人たちに来ていただいて住んでいただくための受け皿を用意しないと無理である。お年寄りには趣味をどう活かせるか、6次産業化などこれまでの経験を活かしていただいて起業化できるようなまちづくりを目指してはどうか。

西村委員 今私たちがやっているのは基本構想だが、その次に基本計画、実施計画につながっていくのか。また、ビジョンで示しているのは総合戦略の基本戦略4だけだが、その他の基本戦略にも関連する話だと思うが、その辺りの整合性と今後の進め方についての考えを説明して欲しい。

事務局 まず1番目の質問について、資料5の生涯活躍のまち構想の最終報告の3頁による地方自治体の役割として、構想を策定して、その次に基本計画を策定するよう位置づけられている。その後事業計画を立てることとなり、本件は大きな方向性を示す構想となるが、来年度以降は基本計画そして事業計画に進んでいく。2番目の質問について資料8の総合戦略において4つの重要戦略を掲げているが、本件は4番目の生涯活躍のまち構想であり、魅力的なまちづくりで幅広い。重要戦略として分けてはいるが、それぞれを複合的に進めて行くべきであると考えているが、本件はまず構想を策定するというので、構想作りにお知恵をお貸しいただきたいと考えている。

鍋山会長 事務局から説明があったとおり、本日は方向性を決めさせていただいて、これまで意見があったような具体化した方がよいとか、具体的にはどうもっていくのか、実際にはどのエリアでまずは始めるのか、などの具体化したところは今後話し合いになっていくと思う。本日はまず方向性についてこれで良いかを大まかに皆様に集約を図りたい。方

向性や作りについてこの形で進めても良いか。

竹岡委員

タウン型でくくってあるが、そうすると医療サービス、介護サービス、支援サービスに振られてしまう。特区を設けるなど、もっとまちづくりの枠を広げて考えないと、これを基にやっ払いこうというのであれば、かなり範囲が狭まってくるのではないかという気がする。エリア型といえばそれまでであるが、そういうものが集積されないとタウン型にはならない。

この構想は介護とかそういうものばかりになっている。若干コンパクトシティの発想も入れ込んだまちづくりをして、美祿周辺に住んでいる人も、そういうところに住んで頑張りたいなと思わせるものをイメージしていきたいと思うが如何か。

鍋山会長

タウン型というよりエリア型より広いイメージがあるが、地域にある医療介護の資源であるとか、商店街での生きがい創出などを含めてつなげていくようなイメージがタウン型のような気がする。今のご意見とは相反するものではないと思われるが、事務局はどう考えるか。

事務局

今回の構想でタウン型とした理由は地域力や市民力をどのような方向に向かって活かせるか、その全体像を描こうとしている。

これを実施して行く上ではモデルというかエリアを決めて、そこに集中的に経営資源を投下して行く、引っ張っていくような事業を進めて取り組まないといけないと考えている。本日お示しした資料の中の、今後高めて行く機能の中で、こうした機能を高めるには、中心市街地をモデルとして取り組む、あるいは、美祿市の中でそれにふさわしい集積のある、または集積を高めて行くエリアを選定してそこへの事業者への参入を促すようなことを描いていただくと、次の計画の段階では具体的な機能や、それにおける役割分担などを書き込めるのではないかと考えている。

現在の方向性では、まずは地域全体の向きを示して、その後の計画等で事業やエリアなど具体性のある取り組みを書き込んで行くように考えている。

古川委員

美祿市は人口3万人を切っている。この人口でかなりの方が高齢者である。そうすると子供たちを除くと中堅の層はごくわずかしかない。その人たちがやるわけだから、まず全体像があって個別の短期間のシナリオとロードマップがなければならない。そこを明確にしないと、いくら方針を書いても方針に終わってしまう。

そうではなくて具体的な結果を想定したうえで全体像を描いて単年度の構想を描く。それで結果を出して行く。企業と同じと考えた方がいい。利益の出ない企業は成り立たないので、いかに利益を上げるかというのと同じ発想が大事。

その中に雇用をいかにつくるかが非常に大事である。その雇用をつくるシナリオの中に、例えばIT系の人にビジネスモデルを作らせるとか、商店街を開発するなど雇用を産み出す仕掛けを全体の構想の中に盛り込んで行く、そして短期長期の構想を描いていく。

結果が見えないと、方針だけ描いても結果が想定できない。そうでないと1年2年経った後にまた補助金を貰わなければならないし、うまくいかなかったという話になってしまう。税金を使っていれば責任がある。利益が無ければ赤字であり大変なことである。構想ではそこを明確にする必要がある。

鍋山会長

本日は方向性をいろいろ盛り込んでいるものなので、次には具体的なところを、今頂

いたご意見と、この後出していただくご意見を基に、事務局の方で作っていただきたい。

雇用の創出であるとか活躍のところは、今日の方向性とか方針にも今後高めて行く機能の中にも入っている項目なので、本日の会議では方向性はこれで行かせていただきたい。

こういう目標、こういう風な美祢市にしたいというものがありながら作って行くことを共通認識としたい。構想の作りとしてはこれでよいか。(質問なし)

それでは本件を了承していただいたということで、つぎに進めていきたい。本日は皆さんからワクワクするようなご意見をたくさん頂いたので、必ず実現するものと信じているので是非具体化していきたい。

## 9. その他

---

事務局

事務局より3点ご連絡する。1点目は次回の美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議の日時は3月10日(木)10時より本庁3階第1・第2会議室で行う予定で調整中である。

2点目は本日の構想案について再度ご意見を頂戴したい。本日意向に気づいた点も含めて第2回の会議の前までにお聞きして、次回の会議に反映させたいと考えている。ご意見があれば、本日お配りしている意見調査票に記載の上2月12日までにFAXもしくはメールにてご送付いただきたい。尚、様式は任意とする。

3点目は3月19日(土)美祢市生涯のまち講演会を開催予定である。菊池桃子さんによる『ソーシャル・インクルージョンってなに?~全ての人に参加する社会~』という演題で、ここ美祢市市民会館において開催するので、ご興味があれば聴講をお願いしたい。聴講を希望される方は後ほど事務局へ申し出いただきたい。

鍋山会長

事務局からの説明があったとおり、是非ご意見を頂きたい。具体的な意見、大きな意見何でも構わないので、2月12日までにお願いしたい。

## 10. 閉会

---

(鍋山会長から閉会の宣言が行われた。)

以上